

## 柑橘果実の貯蔵に関する研究 (第2報) 貯蔵温州ミカンの収穫適期について

稲葉一男・三池達弥  
(熊本県果樹試験場)

INABA, K. and MIKE, T.

### Storage Studies of Citrus Fruit

#### (II) Influence of harvesting time on the keeping quality of satsuma fruits in storage.

温州ミカンを時期別に収穫貯蔵し、貯蔵中の果実の品質、減量を調査し、貯蔵温州ミカンの収穫適期を知る。

#### I 試験方法

昭和40年から3年間、成木尾張系普通温州3樹から、M～S級果を任意に収穫し、7kg入り貯蔵箱に平詰とし、土壁式本貯蔵庫に3月末日まで貯蔵した。

収穫の時期は11月上旬(11月10日)、11月中旬(11月20日)、11月下旬(11月30日)、12月上旬(12月10日)、12月中旬(12月20日)の5回とした。

#### II 結果および考察

1. 収穫期の果実の外観、収穫時期別の果実の着色状況は11月上旬6.0、11月中旬7.0、11月下旬8.0、12月上旬8.5、12月中旬9.0～10.0であり、果実の浮皮率は第1図の如くであり、浮皮果は11月中旬以降の果実に認められ、収穫時期がおくれる程その程度ははなはだしくなり、外観はわるくなる。

2. 貯蔵中の自然減量、貯蔵減量は第2図の如く、収穫時期の早い程多く、遅くなるにしたがって少なくなる。このことは1日1果あたりの減量が各収穫日とも0.1～0.15%前後でほぼ同様な減量であることから、収穫時期の早晩による貯蔵期間の長短が減量の多少に影響するものと思われる。

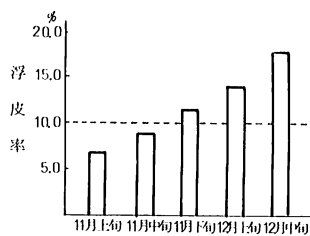
3. 貯蔵中の腐敗率、貯蔵中の腐敗は第3図の如く、各年とも11月上中旬の収穫果に少なく、12月上中旬と収穫の時期が遅れる程多くなる。

浮皮果の発現の程度と腐敗率との関係を年次別にみると、浮皮の甚だしかった昭和40年は各収穫日とも腐敗は少なく、浮皮の程度の低かった昭和41～2年は多かった。このことから浮皮の程度と腐敗率の多少とは直接的な関係を認めることは困難であり、果皮組織の形態的、生理的な差が影響するものと推察する。

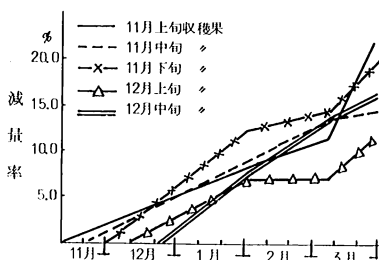
4. 果汁成分の変化、貯蔵中のクエン酸は、11月上旬収穫果が収穫期にやゝ高い含量をしめたほかは各々大差を認めることができなかつた。可溶性固形物は収穫時期がおくれる程高かつた。

5. 出庫時の外観、貯蔵後の外観、鮮度、食味においては収穫時期別による差は認め得なかつた。

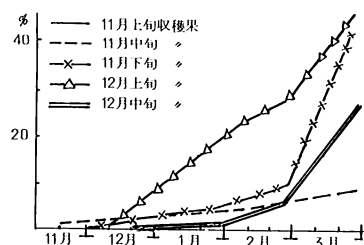
以上の結果貯蔵用温州ミカンの収穫適期は11月10日から20日までとおもわれ、おそくとも11月末日までに終るよう努めるべきであろう。



第1図 収穫果の浮皮率



第2図 貯蔵中の減量率



第3図 貯蔵中の腐敗率